

大牟田市立吉野小学校

1 本校のESDの特徴

本校では、平成24年度から、生活科・総合的な学習の時間を中心に、学習のテーマを「エネルギーを軸とした環境」「我が国の地域の文化・歴史等と外国の文化歴史等について理解を深める国際理解」「自分の命・成長や福祉について理解を深める生命（いのち）」に重点化して持続可能な開発のための教育（ESD）に取り組んできた。

これまでの実践を通して、友達のよさを実感したり、地域への愛着を深めたりすることができてきている。これは、友達と協働で課題解決を図る場面を仕組んだり、地域と協働して地域のまちづくりについて考えたりして、ESDの視点から地域にある素材の教材化を進めたりしてきたからであると考える。さらに、持続可能な社会づくりに必要な能力や態度を「問題解決力」「伝え合う力」「関わる力」「行動力」に整理するとともに、発達段階ごとに具体化して授業づくりに生かし、成果が見られてきた。

そこで、さらにESDでめざす能力や態度を育むために、子どもたちが思考力を大いに発揮し、コミュニケーションの活性化を図って課題追究できるように、子どもたちの主体的・協働的な学びを大切にしたい体験的活動を位置づけた学習展開を工夫している。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

- 1年 「むかしのあそびをたのしもう」「たのしもうあき」「だいすきななつ」「さあみんなですでかけよう」
- 2年 「吉野のすてきを見つけよう」「これまでのわたし これからのわたし」
- 3年 「有明海の生き物を守ろう」「町の工夫見つけ隊」「昔からの手作りおやつ調べ隊」
- 4年 「生き生きビオトープ大作戦」「エコライフ」「2分の1成人式をしよう」
- 5年 「思いをつなげ吉野小桜プロジェクト2018」「守ろう環境！白銀川・隈川探検隊」
- 6年 「平和な世の中を築こう」「大牟田の未来をえがこう」「プロフェッショナルたちの生き方に学ぼう」

3 特徴的な活動事例

＜5年生 総合的な学習の時間 単元名「思いをつなげ吉野小桜プロジェクト2018」（27時間）＞

(1) 目標

吉野小学校のシンボルである桜に対する先輩や地域の方々の思い・願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通じたまちづくりについて考え、実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからについて考え、地域に貢献したいという思いを持つことができる。（相互性、多様性、責任性、連携性）

(2) 実践の展開

①学習課題をつかむ。

- ア) 桜プロジェクトについて知る。
- イ) 6年生との交流会を行い、学習課題を設定する。
 - ・どんなこと ・どんな思い ・成果と課題

②吉野の桜の歴史やそれに関わってこられた方々の思いや願いを調べる。

- ア) 課題に応じて情報収集を行う。（写真①）
 - ・校章に込められた思い ・開校当時の様子、思い ・桜とはどんな植物



【①地域の方と桜について学習】

- イ) 調べたことを整理し、吉野の「桜」について友達や地域と考えを交流する。
- ロ) 桜や地域についての考えや思いを夏祭りで発信する方法を考え、実践する。

③桜でつながる、吉野のまちづくりを実践する。(写真②)

- ア) 吉野夏祭りをふり返り、成果と課題を共有する。
- イ) 桜を通したまちづくりについて『絆プロジェクト』の方々と交流し、目的を共有する。
- ロ) 共有の目的を達成するための活動について、計画する。
- エ) 課題をよりよく解決していくために、実践を行う。(写真③)



【②吉野夏祭りのみこし】

④桜プロジェクトと絆プロジェクトの活動をたくさんの人に発信する。

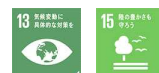
(3) 子どもたちの様子

これまでの先輩の活動を調べていく中で子どもたちは、この素晴らしいプロジェクトを受けつぎ発展させていきたいという思いを持ち、本年度のテーマを「思いをつなげ！！吉野小桜プロジェクト2018」と決定した。桜の校章に込められた思いを当時の先生から受け取ったり、地域の方とこれからのまちづくりについて交流し、地域の方の思いに触れたりすることを通して、子どもたちは、プロジェクトへの思いを深めていくことができた。本年度は、地域の方に教えてもらいながら、これまで先輩が植樹した桜に肥料を入れたり、剪定を行ったりした。地域の方からは、「みんなで手入れをして、百年桜を目指しましょう。」と温かい言葉を頂いた。



【③地域の方と桜の世話】

＜4年 総合的な学習の時間 生き生きビオトープ大作戦（37時間）＞



(1) 目標：ビオトープの管理人として、自分たちにできることを考え、友達や地域の方々とは協力しながら日本固有種を守り育てていく活動を通して、吉野小のビオトープを命の場所として守り育てていきたいという思いを持ち、先輩から受け継いだビオトープを誇りに思うとともに、生物多様性の意味やそのすばらしさを知ることができる。

(2) 実際の展開：①課題設定②ビオトープの生き物調べる。③管理人として生き物を守り、育てる。③未来につなげるための発信をする。

(3) 子どもたちの様子

ビオトープの管理人として、生き物を調べたり、育てたりした。生き物について調べたり、GTから話を聞いたりして、日本固有種を守ることはとても難しいことであり、大切なことであることを知り、どのようなことができるかを考え、行動することができた。本年度は、GTの柿川先生と黒メダカを守るために、水を抜いてかだやしをとり、ヘドロをとってビオトープの掃除を行った。(写真④)



【④ビオトープの掃除】

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・吉野小のシンボルである桜を通して、友達や地域の方々とは積極的に関わり、学校や地域の一員として、よりよい学校・地域づくりに参画する喜びを実感し、自己の生き方を追究することができた。
- ・4年生は、理科や社会の学習と関連を図りながら、生き物を守り続けるために、自分たちにできることを考え、実際に行動することができた。

○課題

- ・行動の変革というねらいを達成するために、全教育活動を通したホールスクールアプローチを強化し、持続可能な社会の担い手を育むESDを展開していくこと。